



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 18 | Issue 3 | March 2015

➡ In this issue...

- ▶02...創立者奨学金
- ▶07...Teaching Skills for the Future
- ▶09...Student-Led Conferences
- ▶10...セカンダリースクール スプリング・ビー
- ▶11...MYPパーソナルプロジェクト・エキシビション
- ▶13...Japanese New Year Party
- ▶16...さくらブック・トレーラー
- ▶18...World Cultures Day
- ▶19...アートスケープ2015
- ▶25...模擬国連スクリメージ
- ▶27...The Big Disconnect
- ▶30...2015春の大学フェア

学校長より.....

KISTコミュニティの皆様、

もうすでに3月、そして2015-16年度の終わりが、後数ヶ月のところにあるということが信じられません。

今年もMYPパーソナル・プロジェクトが大成功に終わり、来月のPYPエキシビションでも、生徒達の学習の成果を祝うことが出来ます。DP試験が近づいてきており、Student-Led Conferences(生徒主導面談)や学年度末コンサート、そしてもちろん卒業式もすぐそこまできています。Summative assessments(総括的評価)や試験もあり、学年度の最後の数ヶ月は生徒にとっても、教師にとってもストレスがたまる時期です。しかし、この時期は同時にコミュニティにとってこれまでの生徒達の学習の成果を祝い、多くの成功や達成感を味わうことの出来る幸せな時期でもあります。

今学年度も祝うべき事柄がたくさんありました。直近の算数・数学力診断テストの結果は非常に良いもので、学校の期待値を達成する生徒の数が大幅に増えており、また、学校の期待値にはとどかないまでも、これまで達成できていなかったレベルに到達することが出来た生徒も増えています。算数・数学力を伸ばすための学校のこれまでの取り組みが実を結んだことを嬉しく思うとともに、これからもこの取り組みを続けていきたいと思っています。

KISTでは年間を通して様々な行事が実施されていますが、その中でも特にコミュニティメンバーからの大きな貢献を必要とするものがあります。そのうちの一つが今年の2月20日に行われたWorld Cultures Day(世界文化デー)です。このイベントはたった4年前に導入が始まった比較的新しいものですが、KISTでも最も盛大なイベントに育ちつつあります。KIST PTA及びKIST図書チームによって協同企画される本イベントは、生徒達に丸一日の、笑いに満ちた楽しい文化交流活動の機会を提供しています。

今年は私のスケジュールの都合が付き、本イベントの多くの活動に参加することが出来たことを非常に幸運に思っています。本をフランス語やアメリカ式手話で読んだり、セカンダリーの生徒による2年生へのインド文化の共有を観察したり、非常に高いレベルで行われた9・10年生対象の言語シンポジウムを傍聴したり、英語落語で生徒やスタッフと大笑いしたりと、一参加者、一保護者、そして学校長としても、本当にすばらしい一日を過ごしました。

次のページに続く

Staff Quote

「簡潔さの中にある複雑性を決して過小評価してはならない」

—Robert Whittaker

DATES TO REMEMBER



March 2015

- 13 Clubs program ends
- 21 Student-led conferences
- 21 Spring college fair
- 22-29 Spring break
- 30 (W) School resumes for all students

April 2015

- 3 Last day of quarter 3
- 7 (G1-G12) Clubs program resumes
- 13 School photographs (New and absent students)
- 22 (G7-G11) Math field day (Hosted@Zama)
- 23-24 (G5) PYP exhibition
- 24 (G12) Last day of classes
- 27-May 1 (G12) DP study week
- 29 School day
- 29 (G10) DP subject options evening for parents and students

May 2015

- 2-6 Golden Week vacation
- 7-8 (G9) Camp (*Tentative)
- 4-22 (G12) DP examinations
- 20-22 (G9-G11) Semester 2 examinations
- 22 (G12) Semester 2 reports issued



KIST is an IB World School

前ページの続き

KISTを代表して、本イベントの大成功、そして生徒達の更なる国際理解に貢献して下さった保護者の皆様、スタッフ、そして生徒達に大きな感謝を奉げます。皆様の貢献により、本イベントは生徒達が毎年楽しみに待つ恒例行事となりました。

皆様がThe Cometの春号を楽しんでくださることを祈ります。また、これから開催されるイベントで皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

Jeffrey Jones
Head of School

For Tomorrow



校歌「For Tomorrow」は2012年6月に学校コミュニティで紹介されました。この歌録音版が、下記リンクの学校ウェブサイトから視聴いただけます。

校歌には2バージョンがあります、「ら、ら、ら♪」のコーラスが入ったカラオケ版と、追加の歌詞が入ったフルバージョンです。ウェブサイトで見聴いただけるのはカラオケ版のみです。

<http://www.kist.ed.jp/node/614>

創立者奨学金

KIST就学奨学金

KIST就学奨学金(KIST Study Scholarships)は学校コミュニティに顕著な貢献を行った生徒を賞するものです。今年度の受賞者は12月12日、金曜日のセカンダリー集会で発表されました。下記、今年度の受賞者の皆さん、おめでとうございます。



KIST Study Scholarships

Silver Awards



Jiaying
Silver Award



Sara
Silver Award

Bronze Award



Angela
Bronze Award

Congratulations!

Habitat for Humanity

ここKISTのHabitat for HumanityチームはG11の16名で構成されています。メンバーは全員、自分達の家を持つことの出来ない貧しい人たちのために家を建設することに意欲を燃やしています。私たちは毎週火曜日の昼食時にミーティングを行い、6月のアジア太平洋地域への旅の準備や、その為の資金調達活動について話し合っています。

Habitat for Humanityはグローバルな非政府組織で、アジア太平洋地域において様々な背景を持った人たちが、現地の方たちのために協力して家を建設するという活動を行っています。1976の設立以来、Habitat for Humanityは800,000軒以上の家を建て、400万人以上の助けを必要としている方たちのために活動してきました。

Habitat for Humanityチームとして、私たちの目標は助けを必要としている人たちについての意識や理解を高めること、そして私たちのアジア太平洋地域への旅行費用の調達です。資金調達の一例として、2月20日のWorld Cultures Dayに自身の文化を共有した記念として実施した写真ブース活動があります。この結果、40,000円近くの資金を得ることが出来ました。ここで得た資金は、すべて本活動のための旅行費用に回されます。ブースを支援して下さった皆様、ありがとうございました。

KISTのHabitat for Humanityチームに興味を持ってくださり、本活動の支援のための寄付をして下さる方は、教員スーパーバイザーのMr Ito、andre.ito@kist.ed.jpまでご一報ください。

Hamish (G11A)



エレメンタリースクールニュース

数学・算数を生活に活かす

いつもは意識はしていないかもしれませんが、数学・算数は私たちの生活の中に存在しています。子供たちを教育する上で、算数を実生活の中で活かし、楽しむことが重要です。数学・算数愛好家の中にはこの学問をある種のスポーツと捉えている人たちもいます；人類と数字、そして理論との競い合いとしてです！大人として、私たちはこの数や記号との、時に困難でありながらも楽しい関わりを奨励しなければなりません。オックスフォード大学の数学科教授である Marcus du Sautoy は私たち自身が持つ数学・算数への嫌悪を子供たちに伝えてはならないと強調しています。親として、私たちが「数学・算数がぜんぜん出来なかった」と強調したなら、子供たちもその学習を軽んじる傾向にあるのです。

KISTエレメンタリーでは、算数を実生活において活かした物、目に見えるものにしようと試みています。私たちは生徒達が活かした形での算数の概念や形式に触れることで、算数への嫌悪感を薄れさせ、よりすばらしい数字の世界に興味を持ってくれると信じています！

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal



PTAニュース

自転車での安全について

春が近づき、温かくなるにつれ、自転車で通学する生徒の数が増えてくるようです。お子さんが通学に自転車を利用される場合、お子さんが自身の自転車をコントロールできるか、また、自転車での通学中に周囲に配慮する事が出来るかについてご確認をお願いします。

PTAスチューデント アクティビティズ コミッティは一般財団法人日本自転車普及協会による1年生から5年生対象の自転車安全教室を6月1日(月)に一時間程度実施する予定です。詳細は4月末ごろにE-Communicationsを通してお知らせいたします。

本コミッティにご興味のある方や、今後の活動のご提案などをお持ちの方は是非下記までメールでご連絡ください：
pta.student.activities@family.kist.ed.jp

Mitsuko Morooka
PTA Student Activities Committee Chair



一般財団法人日本自転車普及協会の詳細は下記をご覧ください。

<http://www.bpaj.or.jp>

K1のデジタルアート体験

3・4歳という年齢ではデジタルアートを制作し、体験することはとても難しいです。これまでK1クラスの子供たちのコンピュータスキルはマウスを動かす、クリックをすることが精一杯でした。しかし、2番目の探求単元、「わたしたちはどのように自己表現するか」を学習するためにはそれだけでは不十分だったのです。

12月5日にK1の子供たちは遠足で未来館(日本科学未来館)を訪問し、プロジェクションマッピングとコンピュータテクノロジーの驚くべき融合により大人も子供もデジタルアートを体験できる特別展示: "teamLab Shake! Art Exhibition and Learn and Play! teamLab Future Park"を体験しました。子供たちは保護者の皆さんと一緒に海の生き物や乗り物のテンプレートに色を塗り、それが壁の大きな海(道路)にプロジェクトマッピングで投影されることを楽しみました。ただ壁に映し出されるだけでなく、これら魚や乗り物は人の突然の動きや、触れることに反応するのです。子供たちも、もちろん大人も、この超現実的なデジタルアートと人との交流に夢中になりました! この遠足はとても美しいものを鑑賞できたとともに、意味深い体験になりました。

本展示は、好評のため本来3月末までだった公開日が5月10日まで延長になりました。まだ行かれていない方は是非一度行かれてみてください!

Aya Kurosaki
K1 Teacher



KIPSで日本文化を祝う...



KIPSでは2月3日(火)に節分イベントで赤鬼と青鬼が登場しました。生徒のおばあちゃんが鬼の立派な衣装を作ってくれました。

NurseryやK1の子ども達は泣きながら、K2とK3の大きい子ども達は勇ましく豆をまき、鬼を退治する事ができました。最後は、体が丈夫になりますようにと年の数より1つ多く豆を食べ厄除けをし、節分を楽しみました。



また、2月11日(水)にはオープンデイを開催いたしました。NurseryからK3までの子ども達は日々学習している様子を保護者の方に見てもらおう為にがんばりました。毎日のルーティンや授業内容また、先生と子ども達の距離間など良くみてもらえたと思います。最後には質問の時間を設け、保護者の方々からの疑問や質問に答えました。

3月には、お内裏様とお雛様の衣装(生徒のおばあちゃんの手作り衣装です)を羽織って写真を撮りおひな祭りを楽しみました。

新しいスタッフ紹介...

The Cometの前号発行後にプリスクールチームに新しいスタッフが加入しました。KIPSのMovement Instructorの—**Mayumi Yamanaka**さんです。



Mayumi Yamanaka
Preschool
Specialist Instructor
(Movement)

学校コミュニティを代表して、Mayumiさんを歓迎するとともに、私たちとの日々を楽しんでくださることを願っています。

校庭の環境改善...

最近のE-Communications (No. 211, Tuesday, March 3, 2015)でお知らせいたしましたとおり、幼稚園の園庭をより安全、快適で魅力的なものにするために、現在ゴムで覆われている遊具周囲への人口芝生の設置を計画しています。本計画実施のために、皆様からのご寄付をお願いしたく存じます。

本キャンペーンの最初の週にすでに多くのご寄付を頂戴し、初期目標であった金額をすでに超えておりますが、遊具エリア外のウッドデッキ交換の追加工事のために、引き続きご寄付を募っております。

本取り組みにご協力いただける場合は、下記リンクの学校ウェブサイトからDonation Form(寄付フォーム)をプリントアウト・ご記入の上、オフィスにご提出ください。

<http://www.kist.ed.jp/files/pdf/Donation%20form.pdf>



PLEASE DONATE!
KIST will match all donations
Artificial Turf for the Kindergarten Playground
HELP US RAISE OUR GOAL OF ¥1,500,000
ADDRESS: 5-15-10002042, KIKO-KU, TOKYO, JAPAN (135-8001)
TEL: 03-3442-9991 | FAX: 03-3442-9992 | JAPAN
E-MAIL: info@kist.ed.jp
WEBSITE: http://www.kist.ed.jp

将来のためのスキルを学ぶ.....

教育とは、子供たちに未だ存在しない職業に就ける準備を行い、未だ発明されていない技術を使いこなす力を付ける事だと言われています。昔の学校教育の目的は知識を教えることでした。しかし、今、携帯可能な技術の進歩により、必要な情報を瞬時に得ることが出来ます。私たちが想像すらできない未来に対応できる能力を、いったいどのように子供たちに身につけさせればよいのでしょうか。

PYPでは「スキル」を教育し、発達させる取り組みを行っています。最近の探求単元で、1年生はデザインと発表について学びました。これから先の彼らの学校教育、高等教育、そして社会人としての人生において、生徒達は聴衆を前にした多くのプロジェクトの準備を行わなければならないと思います。そのため、生徒の「デザインやプレゼンテーションスキル」を伸ばすことは必要なのです。

Sharing the Planet (惑星の共有) 単元の総括的評価では、生徒達は天然資源についてのポスターを作り、発表を行いました。リテラシーでは、説明文とその特徴について学びました。また、これまでの単元で得たリサーチスキルの更なる強化も行いました。クラスは、グラフィックデザイナーでもある1年生のアシスタント、Mr Daveに「リサーチインタビュー」も行いました。Mr Daveはポスター制作の際に考慮すべき点について教えてくれました。デザイナーは「バランス」(文章と写真のバランス)や観衆(誰のためのポスターで、何を伝えたいのか)について考えなければならないのです。Mr Daveはいくつかのサムネイル(イラスト)や簡単な企画などをまとめるブレインストーミングの方法や、始める前に一番好きなデザインを選ぶことをについて教えてくれました。また、2年生のメンターがクラスを訪問してくれ、聴衆をしっかりと見ることや、原稿を見ないこと、熱意をみせることなどの発表スキルを伝授してくれました。

いつものとおり、生徒達はリスクテイクヤーとして新しい課題に取り組みました！説明をしっかりと聞き、すぐに様々なデザインに挑戦しました。生徒達は熱心にポスター制作に取り組み、最終的にKISTの教員、保護者、そして生徒達を招待し、「Sharing the Planet Mini-Exhibition」「惑星の共有・ミニエキシビション」を開催しました。

未来がどんなものであろうとも、生徒達は成功への道を歩み出しています！

Jennifer Campbell
Teacher (G1B)



KIPS K3がフィードバックするのを手伝っているところ



Naokiが学んだことをMr Komakiに説明中



G2メンターが前日に発表スキル伝授のために来てくれました



Lilasが2年生に説明しているところ



Marieがお母さんに説明中



MarkがMr Jonesからのフィードバックを受けているところ

エレメンタリー ELS

5年生:言語学習を日常生活の一部に(第2部)

この記事は5年生が学校だけでなく、日常の様々な場面で、テクノロジーや他の方法を用いてどのように言語を習得しているかについて述べたものです。第一部(12月号)では5年生たちが自身の言語習得に活用したテクノロジーやツールについて教えてくれました。今号では生徒達が編み出した学習方法にスポットを当てます。貴重なアドバイスを共有してくれた以下の生徒に感謝します: **Minh Ha** (G5B)、**Yoo Mee** (G5B)、**Parsh** (G5A)、**Hanna I** (G5A)、**Rei M** (G5A)、**Miyabi** (G5A)、**Nishi** (G5A)と**Nanami** (G5A)。彼らは言語学習のための素晴らしい独自の方法のヒントを与えてくれました。

歌

「私は歌が好きです…たとえばラップとか…時々難しい言葉が出てくるとi-phoneで調べて訳したり…お母さんに聞いたりします。時々インターネットで歌の名前を入れると、歌詞が出てきたりするので、歌を覚えたり…」(Hanna I)

「音楽とかでは良くします…難しい言葉があったりしたとき、辞書で調べたり、それからその文を繰り返していると簡単に覚えられます。… AVbyteというYouTubeチャンネルがあって、毎週ミュージカルをつくるんです。これは、まず楽しいし、知らない言葉がたくさん出てくるので、よりたくさん覚えることができていると思います」(Yoo Mee)

「…音楽はとてもおもしろいです…歌うだけだし…今、自分がその単語や英語の文を言ったのに気づかなかったり…それで、あれ、今何を歌ったんだっけ?とったり。それから覚えようとしてたり…'Let It Go'を訳したり」(Minh Ha)

映画やビデオ

「…BuzzFeedはYouTubeチャンネルの一つです。なぜBuzzFeed Blueを好きかという、科学についての番組だからで、知らないことをたくさん、面白い言い方で教えてくれて、簡単に覚えられます。…知らない単語があっても、次の単語を見ると文章の意味が分かったりするから一時停止をしなくても良かったりします。でも時々はまだ辞書を使います。でも、情報についての番組なので、単語をたくさん覚えられます」(Minh Ha)

「映画を見ていて、難しい言葉があるとはっきり聞き取れるように巻き戻して、それから一時停止をして…それから…オンライン辞書に打ち込むと、ワードで類義語や異義語や意味を表示してくれます。…お母さんは時々映画の感想を書くように言います。それで自分の言葉で書く練習が出来ます」(Yoo Mee)



NanamiとNishi(G5A)は自由時間の読書やライティング同様に友達からもたくさん学ぶことを学んでいます。



Parsh(G5A)は寝る前の読書が落ち着く一番の方法だと思っています。



Rei M(G5A)もParshのように単語ノートを持ち歩いています。

本

「サクラメダルの本はとても役に立ちました。まず面白くていい本があるし、新しい言葉も出てくるし。本を読むと、今まで使ってきた言葉を別の表現で言うための選択肢や考えが湧いてきます」(Yoo Mee)

「自分も映画を見たり本を読んだりすることで学んでいます。本を読んでいて分からない単語があると辞書で調べて単語ノートに書きます。単語ノートはとても便利です。どこにでも持って行って、覚えた単語を書けます」(Parsh)

「…小さい(短い)本を全部読んで、単語ノートに調べた言葉を書きます。それから雑記帳になんでもその本から学んだこと…テーマとか、単語とかを書きます。その後で学んだ単語を正しく使って自分でお話を書きます」(Nishi)

「夜日本を読むことはとてもいいと思います。寝ている間に新しい言葉を覚えられるからです。起きた後にもう一度その本を読むことも大事です。朝にもう一度、本当に大丈夫(覚えたか)を確認します」(Rei M)

社交・コミュニケーション

「お母さんの友達がアメリカにいて、その人に娘がいるので、一年に一回日本に来て英語で話します。なので、すぐに私の英語も上手になります…発音とか、アクセントとか、新しい単語とか…。その子に聞くと色々説明してくれます」(Miyabi)

「他に英語を学ぶのは友達からです。時々友達のほうが私より言葉を知っているので、教えてくれます。私が教えることもあります。友達と話したり遊んだりしているとなぜか覚えます。弟と話していると、弟のほうが私よりずっと小さいけれど、私が覚えていないことを覚えていたりします。弟が教えてくれたり、私が教えたりします」(Nanami)

「週末でも、弟や妹がいれば、本を読んであげたり出来ます。簡単な本を読んでいると小さなときは見落とした言葉を覚えられるかもしれません」(Rei M)

皆さんのお家ならではの言語学習方はありますか? まだないという人は、学校コミュニティの人たちと自分の経験を共有してみてください。皆さんからのアイデアがとても役に立つのです!

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator

生徒主導面談.....



来週は二つの重要なイベントが行われます。一つは自然発生的なもので、もう一つはより学業に関連したものです。前者は3月21日の「春分」、地球の位置関係により、太陽光が直接赤道に当たり、その結果昼と夜の長さが等しくなる日のことです。後者は当校の「生徒主導面談」です。春分は春と、新しい始まりを示し、面談は生徒達の進歩

と達成度の指標となります。

毎年の初春に、KIST生徒達は自身の学習成果を家族と共有する機会を得ます。まだ8月という早い時期から、生徒達はクラスの学習単元から学んだことを表す作品や成果物を選び始めるのです。

私たちの教育理念は特に高度な相互作用のある魅力的な教育を提供することにあります。教師たちは生徒が論理的に考え、問題解決を行い、独立した学習者となれるような指導を行います。生徒主導面談は保護者の皆様へ、引き続きお子さんの成長に前向きな関心を示して頂ける機会です。生徒達にとってはお見せする作品を選び、クラスでの活動や経験についてご説明し、それを通して、自身の強みや弱みを認識する機会です。この面談は生徒、保護者双方にとって今後ご家庭での(学習に関する)自然な会話のきっかけとなるまたとない機会です。皆様には是非この機会を学習目標や達成への道筋であり、学力面だけでなく、家族関係の強化につながるまたとない機会であると真剣に捉えていただけたらと願っております。

これら重要な面談は学校全体で、学習成果を祝う特別な日としてとらえたいと思います。春の始まり、そしてお子さんの教育に関する協力体制の第一歩として3月21日にすべての生徒及びそのご家族にお会いすることを楽しみにしております。

Clay M. Bradley

Elementary Vice Principal / PYP Coordinator



セカンダリースクールニュース.....

2月の終わりに2学期最初の集会が開かれました。冬の間に、体育館があまりに寒いので過去2ヶ月間は集会を行うことが出来ずにいました。今回も開催日を定めるのが困難ではあったのですが、生徒達や私自身が発表したい事柄や、生徒の学業、芸術、スポーツ、クラブなどでの活躍についても全体に報告したいことがありましたので、久しぶりに集会を開くことができました。いくつかの発表は純粋に時間に都合で行うことが出来なかったのが残念です！これらイベントの多くについては本号のThe Cometでお読みいただくことが出来ます。

本集会で簡単に触れることが出来たことの一つに、本年度の方針であるKIST進級基準及び卒業条件があります。先月、セカンダリーの最終編集及び校閲の過程として9年及び10年生全員の成績表を確認しました。多くの生徒達が知識やスキルを向上させ、高いレベルでのパフォーマンスを達成しています。学業面においては、KIST進級基準及び卒業条件により、生徒達が該当学年のカリキュラム学習に問題なく対応できることを確認するとともに、特定の分野でより集中した学習サポートを必要とする生徒を特定することが出来ます。進級基準及び卒業条件は今年度の初めに各ご家庭にメールでお送りしていますが、今一度学校の期待値をご確認頂けますようお願いいたします。本文書は学校ウェブサイトのInformation セクションのCommunityまたは、下記リンクからご覧いただけます：

<http://www.kist.ed.jp/node/67>

最後に、私の今回のメッセージのテーマである学校イベント及び生徒の活躍について総括として、特にお伝えしたいのは、3月21日のSLCの日です。今月、まさにこの原稿を書いている間も、6年から11年生生徒達はアドバイザーの時間などを使って保護者の方にお見せするポートフォリオの準備を行っています。お子さんに今月のKISTポートフォリオの準備・進捗状況を是非お聞きになって頂ければ、お子さんにとって、今までの学習成果をまとめる励みになると思います。1学期の成績のフィードバックやSLCについてのご質問がございましたら、ご遠慮なく私にメールでご連絡ください。本イベント、そして今年度の後半でも皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

Mark Cowe

Secondary School Principal



セカンダリースクール スペリング・ビー

KISTのセカンダリースクール、スペリング・ビーが2015年1月31日、6年から8年生までの各英語クラスから各学年の代表者を選出し、行われました。6年生からは **Deniz, Maki, Joe**、7年生から**Kai, Shunnosuke, GaOn**、8年生からは**Natasha, Gautham, Yuki**が出場しました。Mr Davignonが司会を行い、スペリング・ビーのルールや出場者の紹介を行いました。Mr Miller は出題者で、出場者に正しい発音で単語を出題しました。審判役はMr White で、回答された単語の綴りが正しいかを判定しました。また、Mr Andi は本イベントの写真撮影を担当しました。

このスペリング・ビーで、出場者は8年生のScripps'スペリングリストからの単語を正しく(口頭で)綴ることが求められ、出場者は回答前に出題された単語をもう一度繰り返してもらったり、例文に入れて出題してもらうことを求めることができます。正確に綴られた単語には、GaOnの**"epicurean"**や、Denizの**"hydroponic"**、Natashaの**"wherewithal"**などがあり、出場者を悩ませた難しいものには**"monstrous"**や**"dementia"**などがありました。一人、また一人と出場者が離脱する中、残ったのはShunnosuke、GaOnそしてGauthamでした。彼らは8年生のリストの単語を全て正しく綴り、Scripps'による追加リストの単語に挑戦することになりました。長い戦いの末、G8AのGauthamが**"brawl"**という単語でGaOnを下し、**"mutual"**という単語を正しく綴ったことで優勝しました。

今回のイベントでは、全ての出場者が健闘しました。自身の学年を代表し、戦えた事を誇りに思ってください。

最後に、2015年スペリング・ビー開催にご尽力くださったMs Christianを始めとする先生方に感謝します。

Gautham、おめでとう。3月14日のJapan Times Beeでの健闘を祈ります!

Natasha (G8B) and Shumpei (G8B)



spilleing
speling
spelling
seplling



下記は優勝者であるG8Aの**Gautham**へのインタビューです。

S (Shumpei): 優勝おめでとうございます！いくつか質問していいですか？

G (Gautham): ありがとう！もちろんです。

S: スペリング・ビーの間中とても落ち着いて見えたが、始まる前はどうかだったのですか？

G: 特に何も感じませんでしたし、緊張もしていませんでした。ただ、昨年Japan Times Beeで2位に終わってしまったので、是非今回優勝して再挑戦したいと思っていました。

S: ああ、Japan Times Beeですね！今回優勝して、Japan Times Beeに再挑戦できると知った時はどうでしたか？

G: 優勝して、再挑戦できると分かったときは嬉しかったです。Japan Times Beeで優勝できるよう、ベストを尽くします。

S: Japan Times Beeでは応援しますね！幸運を！

G: ありがとう！



MYPパーソナルプロジェクト・エキシビション

10年生のパーソナルプロジェクトが展示されました

32名のMYP 10年生による力作が3月6日金曜日に体育館に展示されました。

パーソナルプロジェクトは8月から始まった学習の終わりを告げるものです。10年生の各生徒が自身が選んだテーマへの探求成果を発表します。



パーソナルプロジェクトモデル図

パーソナルプロジェクトはIB MYP過程の集大成です。生徒達は自身が興味を持っているテーマを選び、テーマに関する自身の知識を深めると共に、学習にさらに大きな意味をもたらすために実際に行動をとることが求められます。

KISTのMYPスタッフの指導の下、生徒達は探求、計画、行動、振り返りというサイクルの中でプロジェクトを進めます。彼らは学習へのアプローチで得たスキル、コミュニケーション、リサーチ、協同など、を駆使してMYPのグローバルな学習内容の一つに取り組みます。

エキシビションのハイライトの一つは、10年生が自らの経験を、まさに今自身のIB経験の集大成となる活動、PYPエキシビション、に取り組んでいる5年生と共有したことです。また、10年生はパーソナルプロジェクトを来学年度に控えている9年生ともじっくりと話をする機会を持ちました。



生徒達のパーソナルプロジェクトの展示



Mirabelle (G10A) [左奥] が5年生に自身の「個性」についての探求を説明中



Aika (G10B) は犬が福祉にどのような影響を与えるかについて調べました。



Akira (G10A) はプロジェクトの成果物として本を書き上げました。



Hiromasa (G10A) は書道について探求しました。



Saachin (G10B) [中央] が自身の、ファストフードと子供の肥満の関連性を扱ったプロジェクトについての質問に答えている。

ESSへようこそ...

ESS、環境システムと社会、はKIST DPに新たに加わった教科です。これは特殊な教科で、他の強化に比べて多くの物を生徒たちに提供します。この教科の名前の通り、授業では人類と環境システムとの関連について学びます。この教科は世界や現在の社会問題に特に興味を持っている生徒と同時に、実験に純粋な興味を持っている生徒にとっても最適な教科です。ESSはまた、生徒たちが理論・学説を立てたり分析したりする能力を育成します。本教科は広い範囲をカバーするため、生徒たちは異なる理論を否定・却下したり、受け入れたりする賢さを身につけることが求められます。他の教科同様、ESSも同じ枠組みで評価が行われますが、本教科は人文と科学の両方の要素を持っていると考えていいと思います。そして、これこそがこの教科を特別に、面白くする理由なのです！

ESSでは、多くの実践的授業；多くは実験なのですが、が行われ、生徒たちは実験レポートを提出します。祖実験の一つでは、秋の葉の色素を観察・計測し、どの色をした葉に最も多くの特定の色素が含まれているのかを調べました。この実験は非常に思い出深く、また楽しいものでした。なぜなら実際に外で秋の葉を集めることによって、自分たちの身の回りのものが科学；特に化学で構成され、説明できるということに気付いたからです。

もう一つの実験では、指紋を集め、指紋を採取した個人の右手・左手、性別、年齢などの要素との間に関連性・法則性があるかを調べました。この実験は、自分達についての情報を扱うため、生物学的な要素も含まれていますが、採取した指紋によって、人類共通の傾向や特徴を取り扱って



いるともいうことができます。そしてこれこそがESSを選択する利点と言えます。ESSで学ぶということは実生活に適用することができる他の科学についても学ぶことにつながります。そのため、ESSを受講することによって、広い範囲での科学を学び、自然な環境の中で実際に科学を「見て」「感じる」事が出来るのです。

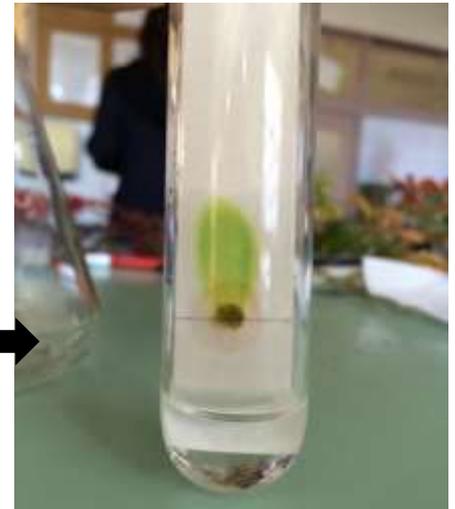
Aditya (G11B) and Ayaka (G11B)



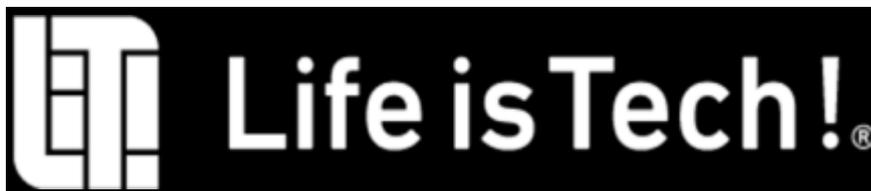
私たちが実際に集めた秋の葉



「葉の汁」を絞るために葉をつぶす



エタノールを使って色素をとりだす



2Dゲーム制作のための
土曜コンピュータ・ワークショップ
G5からG11の生徒対象
2015年4月11日 @ KIST

詳細とお申し込みは <http://goo.gl/forms/MbCGt96fes>
テクノロジーは使うだけでなく、創るものだ！

Japanese New Year Party ..

国際生たちが日本の伝統について学ぶ

1月28日の水曜日、Kインターナショナルスクールにて新年会が開かれました。

このイベントは本校で毎年一月に行われているものです。力士たちは全校生徒と相撲をとるために本校を訪れます。当日は多くの生徒の笑顔が見られました。力士たちは後で生徒達が食べる餅つきのお手伝いもしてくれました。あまり餅のような食べ物が得意でないため、餅を食べない生徒もいました。

2名の生徒がインタビューを受けました。2年の生徒は「力士はとても強かった。勝てなかったけれど、お餅はおいしくて、たくさん食べた」と言いました。5年の生徒は「もう少しで力士に勝てた。とてもおもしろかった。最初は餅を食べるのが怖かったけど、とても美味しかった」と言っていました。

Marina (G9A)



力士の皆さんとの餅つきと相撲

ケイ・インターナショナルスクールの教員及び生徒達は日本文化について学ぶため、力士たちの相撲体験を行いました。

2015年1月28日に、5名の力士が来校し、1年生から12年生と相撲をとってくれました。力士たちは皆とても大きく、強かったので、一対三での取り組みになりました。

ある生徒は力士があまりに大きいので、一対一では絶対に勝てないと言いました。しかし、9年生のある勇敢な生徒が一対一での戦いに挑みました。もちろん、その生徒は負けてしまいました。

力士との対戦の後に餅つきをしました。もちの味付けはあんこ、のり、黄粉など、色々ありました。東京にある本校にとって、すばらしい一日となりました。

Kuni (G9A)



DPの振り返り

DPを始めた時は、MYPと比べて課題量が増えたことに驚きました。多くの課題は成績に関わるため、とても重要です。

DPプログラムでは、生徒たちが上級レベル(HL)と標準レベル(SL)の教科を選択します。HL教科は生徒たちが優秀な成績を修めることを前提としているため、より高度な内容を学習し、またSL教科よりも高い期待値が設けられています。自身が選択したHL教科でより良い成績をとるため、MYPの頃より自習時間を多く取るようになりました。その為、自分が興味を持てる教科を選択して良かったと思っています。私が選択したHL教科は日本語B、心理学、そして美術です。もともと日本の学校に通っていたこともあり、日本語クラスで求められることには馴染みがあり、そのことは私にとって有利なものでした。原則や、各名称、学説名や



それを証明する研究名など暗記するものたくさんあるため、心理学が一番大変な教科の一つです。しかし人間の行動を理解するための教科は常に私にとって興味のあるものだったので、新しい内容を学ぶことは楽しみでもあります。また、自身の趣味の一つとして余



暇にも絵の練習をしています。この経験を課題や制作に生かすことができたため、HLの教科として美術を選択した際も有利に働きました。またDP美術においては、1年間の記録をまとめている自身の日記や、単元の終わりに纏めるオンラインポートフォリオを通して、作品についての振り返りを行ったりしています。これら振り返りは、自身の経験から学ぶことを教えてくれ、次の単元でも続けたいです。

今のところ、授業では多くの困難にも直面し、しばしば学校の勉強と、自身の私生活の間のバランスをとることに難しさを感じたりもします。しかし、学習内容や概念を理解できないときは先生方がいつでも説明して下さいますので、課題がどれだけ難しくても乗り越えることができます。

Liam (G11B)

ようこそ、グローバル授業へ

授業をカフェやスターバックスで受けることを考えたことはありますか？ラップトップと、ヘッドセット、そしてネットへのアクセスがあれば、それが叶うのです。

Pamoja Education は国際バカロレアと密接にかかわっている組織で、オンラインのディプロマ授業を提供しています。これら授業は経験豊富なIB教員によって行われており、授業内容もしっかりと管理・構成されたものです。

2014年度からKISTではDP生たちにより多くの授業の選択肢を提供するために本オンラインコースの提供を始めました。現在KISTでは5人のDP生が下記オンライン授業を受けています：

- 北京語 ab initio SL
- ビジネス及びマネージメント SL/HL
- 心理学 SL

DPコーディネーターの Mr Rose と共に、Mr Kroschel が KIST生のためのPamojaコーディネーターに任命されています。両名ともに、KIST生たちがスムーズにオンラインコースを受講できるよう、また生徒たちが遭遇する技術的な問題にも対応を行います。また英国に本部を置くPamojaの管理者と、特に生徒の進捗・進歩レポートやフィードバックなどに関して密接に連絡を取り合います。

2014年の9月以来、私は2つのオンラインコースを受講しています、北京語ab initio (初級)と、ビジネス及びマネー



メントのSL(標準)です。これまで先生方との対面式授業になじんでいたのので、このような授業形態は私にとって新しい学習経験であり、これまでの固定概念を変えるものでした。しかし、特にグループワークにおいては世界中の他の学生と意見交換・交流を行うことができます。また、先生に質問するときは常にEメールやオンラインのフォーラムを通してのものになることを留意しなければなりません。けれど、私の経験上、先生方は単元や課題への質問に迅速に対応して下さいます。オンライン受講生は定期的に自分のスケジュールにあった時間帯を予約し、(先生との)Skypeを行うこともできます。時々早朝、例えば午前2時、の電話会議に参加しなければなりません。しかし私はこれも人生の経験としてとらえることにしています。なぜならこれも私にとって大学生になる準備過程だと考えるからです。また、特にオンラインDPコースでの時間管理の重要性については言葉では言い尽くせません。また、グローバルコミュニティ対象のオンラインコースであるからこそ、膨大な読書量と、様々な異なる問題点や価値観を共有することができるのです。

Lavanya (G11B)



TASSEL

TASSELはカンボジアの恵まれない子供たちに教育を与えるためのNPO団体です。本団体の支援なくしてこれらの子供たちに英語教育を受ける機会はありません。TASSELの支援無償で子供たち(及びその家族)に教育を提供します。子供への指導、リスニングとスピーキング、は自身の家族を養うために(TASSELからの)給与を支給されている地元教師の支援を受けた世界中(日本、韓国、米国)の学生ボランティアが、VSEEというソフトを用いたオンラインビデオを通して行います。地元教師の給与の大半は世界中の学生ボランティアが調達した募金でまかなわれています。その結果、TASSELは地域の教員の雇用も創出しているのです。生徒達は双方向授業を提供され、英語で必要なスキルを学びます。TASSELは食べ物やインターネットアクセス、その他子供たちが必要とするもの、例えば授業に集中するために必要な栄養素であるビタミン剤なども支給します。現在KISTIにはカンボジアの恵まれない子供たちを支援する意欲を持った生徒が4名います。カンボジアの子供たちに更に大きな支援を行うために自分の時間を提供する意思を持ったより多くの生徒を募集中です。

TASSELのミッションである、「カンボジアの恵まれない子供たちへの支援」を知って、私はこれこそ中国、タイ、インド、そしてカンボジアというアジア諸国で育ってきた自分が行うのにふさわしい奉仕活動だと感じました。本活動をDP CASの一環として始めた私にとって、カンボジアの子供たちへの教育支援は意欲を掻き立てるものでした。上記のような素晴らしい国で生活し、地元の人たちと交流する機会を得ることが出来た私にとって、TASSELは自身の得た経験を賢く活かし、その国の人たちに感謝を伝えることが出来る方法の一つです。TASSELは私にコミュニティに貢献する機会だけでなく、教えるスキルを向上させる機会、そして想像力や教えるのに必要となる他のスキルも与えてくれました。私はTASSELこそ、生徒が色々な面で人として成長する機会を与えてくれる活動だと確信しており、これから更に多くの生徒が参加してくれることを願っています！

Momoko (G11)

TASSELは私の、異なる国の人々と効果的にコミュニケーションをとるスキルを非常に伸ばしてくれました。私はCAS活動を単なるCASのためのプロジェクトとして捉えず、個人的に人生で達成した事と捉えています。私は世界；それが学校での経験であれ、KISTIで受けている毎日の質の高い教育からであれ、から多くの知識を学ぶことができました。そしてよく、「与える喜び」と言いますが、私はただ英語を学びたいと望むカンボジアの熱意ある子供たちに自分が出来ることをしているだけだと思っています。TASSELを通して自分の知識やスキルを世界に貢献するために使えることは大きな喜びです。

Raj (G11B)



TASSELは生徒にとって、とても楽しく興味深い活動で、生徒達を教えるための方法をより多く学ぶ機会を得ることが出来ます。TASSELはカンボジアの恵まれない子供たちにオンライン指導を通して英語を学ぶ機会を提供している組織です。TASSELの指導時間は40分で、放課後行われるため、この活動には自分の時間をかなり投じる必要があります。そのため、現在この活動に参加しているKISTIの生徒は4名だけです。TASSELはKISTIにとって新しい活動なので、生徒達は二人一組で指導を行っています。私はカンボジアの子供たち英語を教えるのを本当に楽しんでます。なぜなら彼らは非常に熱心に学び、そして覚えるのが早いからです。また、生徒達・子供たちは指導を受けているときとても協力的で、忍耐強いです。私はすべてのKISTI(そして非KISTI)生にTASSELに参加しカンボジアの子供たちに英語を教えることを勧めます。私たちが学校として世界中の恵まれない子供たちを支援したなら、一歩ずつ(この場合は一文字ずつ)世界を変えることができると思うからです。

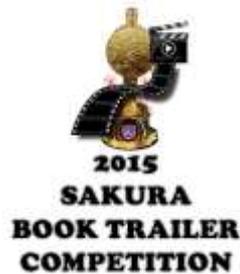
Aashivi (G11B)

カンボジアの子供たちに始めて英語を教える時はとても大変で、また緊張しましたが、同時に人生で最も素晴らしい経験でもありました。村に(オンラインシステムで)連絡を取ると、すぐに子供たちが「こんにちは、先生、ご機嫌いかがですか」と熱心かつ、可愛らしい声で歓迎してくれました。TASSELのオリエンテーションでは教える側も子供たちと同じくらい熱心でいることが大切だと教わりました。私は子供たちが正しい発音が出来たことを一緒に祝う事がどれだけ楽しいことかに気づきました。このようなことは私を本当に幸せにしてくれます。なぜなら彼らにとって私たちのような流暢な英語を操るものに英語を教わるのが以下に貴重な経験かを表しているからです。地元の英語教師も良い方たちです。彼らは授業が円滑に進むようにサポートしてくださいます。TASSELの一員であるということは子供たちにとって利益をもたらすだけでなく、私自身の教師としてのスキルも向上させてくれます。TASSELの面白いところは、教える側がどんなに独創的な授業を行ってもいいことです。一度授業を見てみてください。それぞれが全く違う個性的な指導をしています！

Nino (G11A)

サクラブック・トレーラー

セカンダリーの生徒達が日本語の授業でサクラブック・トレーラーコンテストに参加しました



生徒達は今年、2015年のサクラメダル書籍を一冊読み、選んだ本を紹介するブックトレーラーを制作しました。評価者としてMr Jones、Mr Andi、そしてセカンダリーの日本語教師達が各分野で最高のトレーラーを選びました。すべてのトレーラーをLMCのMoodle pageから見る事が出来ます。生徒達が制作したトレーラーをどうぞお楽しみください！



最終的に選ばれたトップ7位までの生徒には、直近のセカンダリー集会で賞状と1500円相当のiTunesカードが渡されました。生徒達が制作したこれらトレーラーは国際サクラブックトレーラーコンテストに応募され、日本国内の他の多くのインターナショナルスクールの生徒の作品と競うこととなります。

本活動はLMCのコーディネーションと、PTA図書委員会の後援の下、日本語科によって指導されました。来年は本活動を更に拡大し、多くの異なる学年の参加を求めていきたいと思えます。

Middle School Japanese A

Aya (G8B)
Yeonsoo (G8A)
Sophia (G8B)

Middle School Japanese B

Li Ran (G8A)

High School Japanese A

Aska (G9A)
Ibuki (G9A)
Manato (G9A)

High School Japanese B

Taisei (G9B)
Ken (G10B)
Hiroya (G10B)

国際(レベルの)コンテストに応募される作品の製作者は:

Kiyomi Kanazawa
Subject Area Coordinator – Japanese



Mr CoweがファイナリストのManato (G9A)とKen (G10B)

WebLEAPブーム!

WebLEAP は4年生から10年生を対象としたオンラインライティング(小論文)プログラムです。受講生は1対1のフィードバックを得ることが出来ますので、全てのレベルの生徒達に対応できます。今学期は、新しいKIST保護者のDonna Linnettの協力のおかげでWebLEAPプログラムを再開することが出来ました。Mrs Linnett は経験豊富なIB教師であり、TOK試験官です。彼女の協力が得られたことを嬉しく思っております。

今回はKIST生のみならず、千葉、岡山、札幌、やニュージーランド、モロッコ、カナダなどからの多くの外部生からも受講希望をいただいたため、早目に申し込み受付を終了することになりました。

来学期のためにプログラム詳細をご希望の方は、LEAP website (<http://www.k-leap.jp>)をご覧ください。

Anna Holdaway
LEAP Coordinator



図書室ニュース

World Cultures Day 2015

今年で4年目となるWorld Cultures Day(以前は国際母国語デーと呼ばれていました)は2月20日、金曜日に成功裏に祝われました。今年度からKIST図書館チームは、国際交流のさらなる促進と、母国語のサポートのために、よりイベントの範囲を広げています。イベント中に行われていた活動は(エレメンタリーとセカンダリーの)生徒たち、教員、保護者たちにとって協力し合う機会を与えてくれ、本全校イベントを非常に意義深い学習機会としてくれました。

5年生たちは今年のイベントを上野の国立子供図書館で迎えました。生徒たちはこの図書館と特別展示を堪能し、東京都民は無料で利用できるサービスを楽しみました。



学校でのイベントは、まず金曜早朝にセカンダリー有志(Emani, Min Woo, Marlinah, Aya, MichiruとKeri)のグループ、One Voiceによる“Yesterday's Dream”という歌によってはじまりました。続いて4年生がMr Leroy振り付けによるダンスナンバー、“Black and White”を披露しました。本イベントのハイライトは校庭

でのパレードでした。今年は昨年に比べて更に多くの生徒たちが民族衣装をまとい、誇らしく自国の国旗を振ってパレードに参加しました。今年はKIPSの生徒たちも初めての楽しい催しに参加しました！

先生方も「トップ5ベストドレッサー」に参加することが推奨されました。選ばれたMs Sheyla(K2)、Ms Mac(K3A)、Mr Smith(K3B)、Mr Vodden(G2A)そして Mr Matsui(日本語教諭)おめでとうございます！民族衣装や文化を表す衣装でイベントを盛り上げてくださった先生方、ありがとうございました。



エレメンタリーの低学年は様々な外国語:韓国語、中国語、フランス語、そしてアメリカ式手話、での朗読を聞く機会に恵まれました。子供たちは読まれるお話を楽しむとともに、異なる文化についても学びました。セカンダリーの生徒たちが自分達の母国語:ヒンズー語、中国語、韓国語を教えるためにエレメンタリーの教室を訪れました。また、MPRでのHabitat for Humanityの慈善目的の写真ブース、世界



の言語コレクション、フュージョンアートエキシビションも大盛況でした。美術作品を見に来てくださり、また写真ブースをサポートしてくださった保護者と生徒の皆さん、本当にありがとうございました！



3年生から8年生までの生徒たちは女性落語家Ms Oshimalによる英語落語を楽しみました。演目は古典と新作、そして自身が創作されたものもありました。当日の公演にいらした多くの保護者や生徒たちからも良い

フィードバックをいただきました。

World Cultures Dayのフォトアルバムをご覧になりたい方は **Elementary Library** または **LMC** の Moodle pageをご覧ください。



2015年サクラ読書プログラム

今年もKISTは、日本中のインターナショナルスクールの生徒たちがお気に入りの英語または日本語の絵本、小説、劇がに投票するサクラメダルプログラムに引き続き参加します。KISTのエレメンタリーの生徒たちはエレメンタリー図書館で4月11日まで投票に参加できます。投票の詳細とパンフレットについてはMs Leslieにお尋ねください。

前ページの続き

サクラメダルBook Bowl

クラブを指導してくださっている Ms O'Handley (G4B) と Ms Patterson (G1A) のお陰で、KISTの4・5年生は初めてサクラメダルBook Bowlに参加することができました。このコンテストは生徒のサクラメダル小説に関する知識を問うものです。今年のコンテストは4月10日に聖心インターナショナルスクールで開催されます。本校の生徒たちはこのコンテストのために熱心に読書と準備に励んでいます。コンテストでの彼らの検討をどうぞ祈っててください。

KIST 蔵書の発展・拡充について

図書チームはKISTの蔵書の発展・拡充のためにコミュニティの皆さんにご協力いただく予定です。毎学年度の終わりに信頼性のある図書サプライヤーであるTitlewave、IB Online StoreやScholastic Booksなどからカリキュラムに役立つ資料や娯楽のための蔵書の購入・更新を行います。購入に当たってはKirkusやSchool Library Journalな

どの書評も参考にしますが、皆さん以上に学校コミュニティをよくご存じの方がいらっしゃるでしょうか？お勧めの本やオンライン資料などがございましたら、是非メールで library@kist.ed.jpまでご連絡ください。

The KIST Library Team



World Cultures Day

KISTでは2015年2月20日、金曜日にWorld Cultures Dayを祝いました。このイベントは大成功でした！すべてのKIPS生、KIST生、教員やスタッフはMr AndiとPTAメンバーで構成された図書チームが企画した活動に参加し、楽しい時を過ごしました。

セカンダリーの生徒有志によるグループOne Voiceが、保護者やKIST生を“Yesterday's Dream”と名付けられたオープニングソングで迎えました。生徒達の何人かは一緒に歌い、他の生徒達は自国の国旗を振りながら歌いました。

Mr Leroyが、マイケルジャクソンの“Black and White”に合わせ、4年生のために振付けたダンスナンバーは大きな拍手で迎えられました。

大きな高揚感とともに、生徒や教員たちは国旗を掲げ、自身の民族衣装を纏って校庭でのパレードに参加しました。観覧の保護者や教員たちは、様々な衣装を楽しみながら、大きな拍手や笑顔、温かい言葉を参加者たちにかけてくれました。

また、生徒達は、そのほかにも行われた様々な活動に参加し、一日を楽しみました。

当日行われた活動です：

- 保護者による異なる言語での読み聞かせ、セカンダリー生による英訳付き
- MPRでの、保護者や生徒による文化的な(物品)展示
- 体育館での落語会
- MPRでHabitat for Humanityによる慈善目的(寄付集



め)のための写真ブース

- セカンダリーの生徒による外国語の基本的な単語口座
- ディズニー映画を英語の字幕付きの外国語版で鑑賞

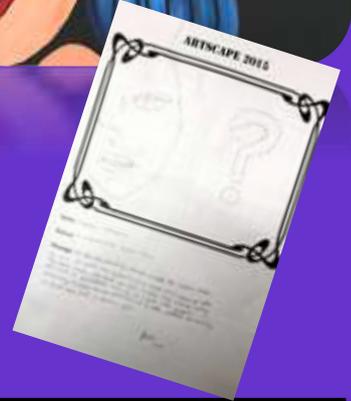
本イベントは大勢の笑顔と、学校コミュニティ及びKIST図書チームへの大きな感謝で幕を閉じました。

Macrina Prado
K3A ELS Instructor



左から時計周りに:

Felix (G11A), Isabella (G10A),
Cindy (G11A), Sara S. (G9A),
Naman (G8A), Miu (G9A),
Mirabelle (G10A), Alia (G6A),
Yeonsoo (G8A)



アーツケープ2015

恒例のアーツケープ展示会が今年もAzabu Kids to Teens Hallで開催されました。今年も関東地域の13校から、幅広い年齢層の参加者が学校を代表し、2Dや3Dの様々な美術作品を出展しました。

今年、KISTからは6年生から12年生までの生徒たちが、ヴィジュアルアートで参加しました。多くの生徒や教員たちがKISTから出展した作品の質について高く評価してくれました。また、ISSHの生徒2名が作品の素晴らしさについて本校生徒たちに手紙を送ってくれました！

他の教員たちからのコメントの一部です:

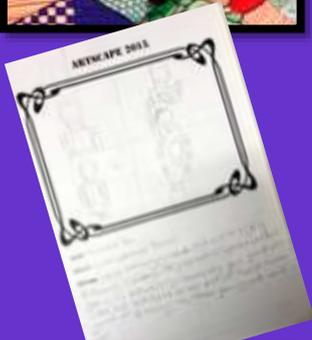
絵画のうちのいくつかのアクリル絵の具の使い方と他のメディアを使用する技術と共にディテールと色彩の使い方。

色彩の鮮やかさと興味深い嘲笑的な構成。

また8年生2名の3Dコンセプトジュエリーと、身体装飾品のデザイン画も出展しました！

参加した皆さん、良く頑張りました。そして来年も素晴らしい作品を出展できることを楽しみにしています！

Mrs Emma Justice
MYP/DP Visual Arts Teacher



K. INTERNATIONAL SCHOOL TOKYO

**IBDP
VISUAL
ART
GRADUATE
EXHIBITION**

**FRIDAY MARCH 20TH
2015**

4.30-7PM, KIST GYM

Staff 10!

今月のStaff 10!では、2014年にMYPテクノロジー及びセカンダリースクールの数学教師としてKISTIに着任した**Andrew Tulk**をご紹介します。嬉しく思います。



ボルネオのキナバル山の斜面にいるMr Tulk

- **出身地について面白いことを教えてください。**

St. John'sは北アメリカで最も古く、また東寄りの町です。

- **世界で一番好きな場所はどこですか？**

家庭/家族のあるところこそ最上の場所です！

- **チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。**

カナダの首相Stephen Harperです。いくつか彼に言いたい事があるのです！

- **何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？**

ピアノとトランペットの演奏が出来ます。

- **ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。**

私の誕生日は、両親の結婚記念日と一緒に祝います。私は両親の結婚式のちょうど一年後に生まれたのです。

- **あなたにとって一番の宝物は？**

これまでに行った国々で集めた冷蔵庫のマグネットコレクションです。

- **ご自分を言葉で表現すると？**

暢気で、気が散りやすい、そしてフレンドリー（だと思います！）

- **もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？**

アイスホッケーが出来るようになること。

- **自分を高めるために今やっていることは？**



セント・ジョンズの風景

もっと良く人の話を聞けるようになること、もっと集中できるよう努力しています。

- **ファンに一言お願いします。**

ファンがいるのでしょうか？

保健便り

学校での投薬について

保健室にある内服薬について

「咳止め、下痢止め、吐き気止め、風邪薬はありますか？」生徒からこのような質問を受ける事が多々あります。保健室は医療機関ではないので、一人一人の症状や体質に合わせたお薬を出すことはできません。現在、当校保健室で常備している内服薬は市販の整腸剤（ビオフェルミン）、鎮痛剤（小児用パファリン、EVE-A錠）です。これらの薬を使用する際は学校医またはスクールナースが判断し保護者の承諾を得てから内服をさせています。



処方薬の持ち込みについて

通常生徒は、学校に薬を持ってくることはできません。他の生徒が誤って薬を飲んでしまう危険性があります。原則として、保護者の皆様には、お子様が医療機関で診察を受ける際、担当医師に一日2回の投薬処方（朝夕2回）をご依頼されること、または在校時間以外で投薬をしていただくようお願いしています。もし一日3回の投薬処方が出された場合、昼の分は放課後、夕の分は就寝前に時間をずらすなどの工夫をお願いしています。

それでも、学校で投薬しなければならないものは、以下の手順で行うこと：

- 家族、もしくは保護者の方々が薬を投与するために来校する。
- 上記できない場合は登校後保護者が保健室に学校の署名された許可等を記入した**Permission to Administer Medication**フォーム（学校ウェブサイトからダウンロード可）を提出し薬を預ける。生徒のかばんの中に薬を保管してはいけません。
- 生徒は投薬時間になったら保健室に行くこと

喘息の吸入器やエピペンなどの緊急を要するものについては保護者の方と相談し生徒のかばんの中での保管を考慮します。

皆さまのご協力をお願いします。

Makiko Whittaker
School Nurse



スクールカレンダー-2015-2016



海外への家族旅行を計画なさる方々は、以下に記載されている2015-2016年度スクールイヤーの休みの日程をご確認ください。お子さんが、各休み明けの登校日に学校に出席できるように旅行を計画してください。正式なスクールカレンダーは6月に配布されます。

- **登校初日:** 2015年8月17日
- **キスティヴァル:** 2015年10月24日
- **秋休み:** 2015年10月25日～11月1日
- **冬休み:** 2015年12月19日～2016年1月10日
- **春休み:** 2016年3月26日～4月3日
- **登校最終日:** 2016年6月8日

クラブ活動のハイライト



世界を2Dで眺める - 絵画・イラストクラブ

私の大学時代の恩師の一人がある時このように言っていました、「すべての子供は生まれつきの芸術家である。子供時代、親たちは鉛筆、クレヨンや塗り絵を与えてくれた。しかしそのうち、ボール遊びなどをするようになり、クレヨンを後に置き去ってしまう子供がいるのだ」この言葉は、小さいときから友達が外で遊んでいても、描くことしかしてこなかった私に大きな衝撃を与えました。

現在、学校で勤務しながらプロのグラフィックデザイナー・イラストレーターとして生きる私にとって、毎日子供たちの技術や才能を目の当たりにしている私は恩師のこの言葉をよく思い出します。そしてこう思うのです、毎日教室で多くの小さな芸術家たちに接している。彼らの天与の才を伸ばすことに力を貸したい、と。

絵画・イラストクラブは周りのものを取り込み、紙の上で表すことに情熱を持った子供たちのための場所です。ここでは様々なテーマ; 基本的な形を使って人物を描く、光と影(少し子供たちには難しかったかもしれませんが、でも、良く理解してくれました!!)、漫画やあや目陰影効果などを取り扱いました。技術的な面だけでなく、自分たちの身の回りにあるものを観察することや、それらが紙の上でどう見えるのかを想像することなども教えようとしています。

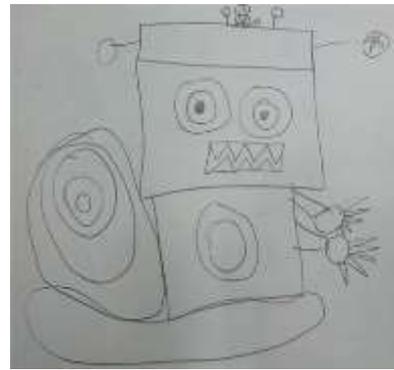
子供たちは描くことを楽しんでおり、私は彼らが上達することを大きな喜びを持って見守っています。クラブに参加した

子供たちが絵を描くことを楽しみ続け、新しいものを想像し続けてくれることを願っています。



絵画クラブでのSatoriとYlana(G1A)

Julian Dave
Club Leader



Renzo (G2B)による「ロボットカタツムリ」



Min Seong (G2B)による「あや目陰影効果」のサンプル

レ・ミゼラブルクラブ

レ・ミゼラブルクラブは6月のパフォーマンスに向けて2014年9月から練習しています。初めはお客さんの前で歌うことを恥ずかしがったり怖がったりする生徒もいましたが、ステージで2回パフォーマンスをしたことで、生徒に自信が付き始め、達成感を味わうことができました。

KISTの卒業生で、現在国際基督教大学の演劇部の部長を務めているKei Komaki (Class of 2012)が生徒の指導をし、ミュージカルの練習をしています。また、ミュージックのMs Babaevaも生徒に歌唱指導を行ってくれています。

次のクラブサイクルから、エレメンタリーのパフォーマンスクラブの生徒も数名加わり練習をする予定です。ミュージカル「レ・ミゼラブル」の発表は6月2日に江戸深川資料館の小劇場で行われます。これはKISTで初めて上演されるミュージカルですので、KISTコミュニティの皆さんにも是非ご覧いただきたいと思います。ミュージカルの発表についての詳しい情報は後ほど発表致します。

Nanami Komaki
Club Co-Leader



レ・ミゼラブルクラブメンバー



次のページに続く

前ページの続き

エレメンタリー ロックギタークラブ

ACDC、ブラック・サバス、レッド・ツェッペリン。エレメンタリーの4年生と5年生は今学期、クラシック・ロックギターリフやロックギターを楽しむための重要事項について学びました。このクラブに興味のある生徒は詳細についてMr Robertに問い合わせてください。

Robert Collins
Club Leader



スポーツニュース



1月16日と17日に、Mr LeroyとMr Abarcalに率いられたハイスクールの男女バスケットボールチームの選手が、毎年恒例の横浜招待バスケットボール・トーナメントに参加しました。不参加期間もありましたが、今年は久しぶりに招待され、日本中のインターナショナルスクール;大阪インターナショナルスクール、北海道インターナショナルスクール、神戸・カナディアン・アカデミーオブジャパン、聖心インターナショナルスクール、横浜インターナショナルスクール、そしてサンモールインターナショナルスクールと試合を行いました。男女両チームともに総当たり戦で激しい戦いを繰り広げ、決勝進出の権利を獲得しました。

女子チームはサドンデスでYISに勝利し、優勝をかけ、総当たり戦で唯一敗北した宿敵サンモールと対戦しました。女子チームは善戦しましたがトーナメントを通して無敗のサンモールの強力な選手たちに敗北を喫しました。KISTの女子Cometsは2015年度のトーナメントを2位で飾りました。これは私たちにとって誇るべき成績です!! 女子チームは2012の2位、2013の優勝と、このトーナメントで常に輝かしい成績を誇ってきました。



男子チームはすべての試合を軽々と突破し、最終戦で強豪YISにあたりました。両チームの実力は伯仲しており、最終クォーターは非常に濃密なシーソーゲームが展開されました。残り時間6秒のところKISTは相手チームに1点リードを許していました。自軍のゴールからのインバウンドを取り、敵チームの総攻撃をかわぐち、KISTの得点王であり、巧みにボールを操るSalam (G12A)が相手ゴールに迫り、レイアップでファールをとられたのですが、ボールは相手ゴールに見事に決まり、KIST男子は2015横浜招待トーナメントにおいて、過去4年間で三回目、2012、2013、そして2015年、の優勝という栄誉に輝きました!



厳しい練習に耐え、学校を代表して戦ったCometsバスケットボールチームの皆さん、おめでとうございます

次号では2015 ISTAA ハイスクール&ミドルスクールバスケットの結果をお知らせします!!

Jay Leroy
High School Boys and Girls Basketball Coach
Athletics Director / PYP/MYP Physical Education Teacher

セカンダリーSRC

学生基金

学生基金は新しい試みで、生徒達が自身の構想・提案の実現ためにSRC予算から資金を求めることが出来るシステムです。KIST生のためになる購入物品やイベント資金のために学生基金ではすべてのKIST生からの申請を受け付け、確立された基準に沿って、実現可能性などを判断したうえで承認を与えます。3ヶ月ごと(1月-3月、4月~6月)に50,000円以内の予算を確保していますので、コミュニティからの活気のある提案を待っています。SRCはすでに複数の申請を受け付けており、そのうちの一つ(KISTeens Winter Wonderland Competition)が学生基金からの予算により実施されたことをご報告できることを嬉しく思っています。

生徒用プリンター

SRCは図書室に生徒用のプリンターを設置しました！これからは生徒にとっての危機的状況「今日提出の課題を印刷し忘れた！」などの場合にも、USBを図書室に持ち込めば、生徒用プリンターが問題を解決してくれるでしょう。もしプリンターを利用する場合は、白黒印刷が1枚10円、カラー印刷は1枚50円かかるということを憶えておいてください。またプリンターの使用時間は、午前8:15~8:40と、昼食時の午後1:15~1:40のみです。



傘の貸し出し



これはセカンダリーの生徒達が突然の雨や雪の場合にSRCから傘を借りられるシステムです。傘を借りるにはまず300円の保証金を支払わなければなりません。かさの返却時に、この保証金は全額返金されます。このシステムを正式に導入するためにはSRCに正式な提案が提出されなければなりません。提案には提案内

容、どのように機能するか、そして最も重要な、提案がどのようにKIST生の生活を変えるかについて記載しなければなりません。

SRCの各クラス代表者の過半数によって提案が妥当なものであり、KIST生の利益となると判断された場合、提案は承認されます。その結果、このシステムは実施され、雨の日に生徒に活用されています！

Friday the <3th

2月、SRCは有名なSRCダンスの準備で非常に忙しい日々をすごしていました。今回のテーマはパレンタインと13日の金曜日、Friday the <3th (Friday the Hearteenth)を混ぜたものでした。このダンスではHabitat For Humanityチームとのコラボも実現しました！私たちはテーマの決定、体育館のレイアウトデザイン、楽しいイベント企画から宣伝までのすべてを行いました。いつものように生徒や先生方から多くの好意的なフィードバックをいただき、本イベントも大成功に終わりました！



The Secondary SRC



模擬国連スクリーン

KIST・MUNクラブ主催の模擬国連交流会がまた大成功に終わりました

今年の模擬国連交流会(模擬・練習版模擬国連)は2015年2月7日に開催されました。KIST MUNに参加するのが初めてだったのですが、素晴らしい時を過ごすことができました。今年は横浜インターナショナルスクールと、プリティッシュ・スクール・イン東京から約75人の代表者が参加しました。

土曜の早朝に、代表者たちがMPRに集合しました。各生徒が国を代表する大使の役割を担います。**Kouta (G12B)**が事務総長、そして**Akiko (G10A)**が副事務総長役で参加しました。

私たちは終日自分たちが担当する2つの委員会で過ごしました。どちらも総会で、取り扱ったテーマは「アフリカにおける疫病の効果的な減少政策」でした。

模擬国連が始まると、各代表が開催に当たってのスピーチを行い、テーマに対する自身の立ち位置や意見を述べました。そこから自分たちと同じ意見を持った代表者と解決策を検討するためのグループを形成しました。これはすべて総会内で行われました。解決策は各代表者が模擬国連の前に用意した草稿も含まれていました。解決策を検討するに当たっては元々用意した草稿をただまとめるだけでなく、代表者同士が意見交換し、お互いを良く知り合った結果にまとめられたものです。

議論のための準備が完了すると、楽しい時;実際の議論が始まりました。議論の目的は各代表者に受け入れられるよう、提案を最も良いものに磨きをかけることです。代表者たちは解決策の効果について説明し、また、なぜ提案された解決策に賛成・又は反対なのかという意見を述べます。これが私たちの初めての参加だったため、ものすごく緊張しましたが、それでも自分たちの意見を述べる事が出来ました。議論に参加して、他の代表者たちがいかに速く意見をまとめ、相手の賛同を得るための説得を行うことができるのかを目の当たりにすることが出来ました。

議論に続き、委員会は各代表が投票のためのプラカードを掲げる投票に移りました。

MUNは私たちが多くのスキルを伸ばすための良い機会でした。議論や他の人たちとの社交スキルを伸ばすだけでなく、今年参加したことで世界が抱える諸問題をより意識するようになりました。生徒の皆さんには、人として成長することが出来、また、自信を持ってスピーチが行えるようになるMUNにぜひ参加することをお勧めします。

Natalie (G9B) and Selena (G9B)
Photos by **Tamami (G12A)**



KIST代表団とアドバイザーのMr Erickson, Mr Cernak, Mr White



KIST 代表者たちが自身の提案する解決策についてと検討中



Natalie (G9B)
[中央] がロビー活動中



Selena (G9B) がオープニングスピーチの準備中



Aishwarya (G12B)、Rina (G12B)、Keerti (G12B) が最後のMUNについて振り返り中



Lavanya (G11B) が委員会に自身の考えを発表中



Arjun (G10A)、Akiko (G10A)、Mirabelle (G10A) が協同でロビー活動中

言語、文化、そしてアイデンティティ...

KISTの生徒と教員が言語、文化、アイデンティティについて意見の交換を行いました

KISTのWorld Cultures Day行事の一環として、9・10年のMYP生達はLMCでのセミナーに参加しました。Aska (G9A)の司会の下、ディスカッションは2名のDP生、Jiaying (G11A)とSara (G11A)、そして教員Ms ChristianとMr Hishiyamaの経験を核として進行しました。5人の参加者は全員豊かで複雑な言語及び文化経験を有しています。2時間のセミナー中、パネリストたちは世界への理解や自身の立ち位置を理解するために役立った自身の経験について話しました。

MYPの生徒達は非常に熱心な聴衆であり、この機会をIB経験の一部を構成するテーマ: 言語の重要性、国際理解、及びインターナショナルスクールの生徒とホスト国分化との関係性、についての理解につなげていました。



Mr Hishiyamaはフランス、アメリカ、スイスで教育を受けました。



Ms Christianはインターナショナルスクールで生徒として過ごした経験について話してくれました。



Jiaying (G11A)は上海とのつながりと、ご両親の文化について話してくれました。



Sara (G11A)はKISTでの初めての英語教育経験について振り返ります。

World Cultures Dayセミナーの振り返り

World Cultures Dayを祝うため、2月27日のアドバイザーの時間に9・10年生の生徒主導のセミナーが開催されました。2名の先生と2名の11年生からなるパネリストたちが異文化、国際理解、そしてアイデンティティについて討論を行いました。討論での意見の交換は私自身の成長過程における文化的アイデンティティの確立までの苦悩の記憶を呼び覚ました。

「生粋の」日本人として生まれ、バイリンガル環境で育ったフィリピン/中国人として、私は幼少期から様々な文化や信仰にふれて育ちました。しかし日本という単一民族社会で成長する中で、私はしばしば自身の文化的、社会的なアイデンティティに悩んできました。私は、日本人の外見をし、日本名を名乗りながら、なぜ流暢な英語を話すのかを知りたがる多くの人から、繰り返し出自について聞かれてきました。純粋な日本人である同世代の子供たちは私を、その謎を解明すべき異分子として扱いました。私は、好奇心をいっぱいにたたえた同級生やその保護者に自身の出身について説明させられた悔しさに、日本の学校から泣きながら帰ってきた日のことを覚えています。それから誰かが「どこの出身？」と尋ねる度に自分の中に閉じこもり、「それが何の意味があるの？」と自分に問いかけるようになりました。

私は多くのインターナショナルスクールの生徒達がアイデンティティに関する内面の葛藤を経験していると思います。インターナショナルスクールに転校し、世界中を旅したことは、私の世界観を広げ、文化的に異なることは悪いことではない、むしろ良いことであると示してくれました。パネリストたちも私自身の体験と似通った経験を語りましたが、その結果である彼らの意見は私とは異なるものでした。この討論は、私にとって異文化とは何か、そしてその影響や個性について明確に示してくれた健康的で、啓発的なものでした。

私は国際理解とは異文化理解への鍵であるということを学びました。国際理解とは多文化的と同義ではなく、他の文化や物の見方、価値観敬意を表し、互いの違いに寛容であるということです。社会的・文化的な受容性を促進することで人は文化やコミュニティの多様性を持ったより良い関係を築くことが出来るのです。これこそが真の国際市民と呼ぶのではないのでしょうか。

私はKISTがWorld Cultures Day セミナーのようなイベントをより多く開催し、国際理解を広め、未だ自己を確立する途上にある人たちの手助けをしてくれることを望んでいます。

Hana (G10B)



Hana (G10B)がWorld Cultures Dayセミナーを振り返ります。

The Big Disconnect

デジタル時代に生きる子供たちと、家族の繋がりを守るために

親として私たちは自身の経験や、コミュニティ内の他者のアドバイスを元に、重要な役割である子育てを最上の形で行えるように日々学んでいます。しかしこれまでの親たちは今日のテクノロジー社会での子育てを行ってはいませんでした。その為、現代のネット社会が子供たちの発達にどのような影響を与えているのか、また子供たちのテクノロジー関連の活動をどう管理したらいいのか分からず悩んでいます。

**生徒たちは1日平均
6.5時間電子機器を
使用する。**

現代の子供たちはテクノロジーとともに成長しているだけでなく、テクノロジーそのものの上で生きているのです。彼らの社会性や精神的な発達は家庭や学校だけでなく、ネット社会や、現実世界では全くの見も知らないライン上のみでの「知り合い」の影響を大きく受けています。

自分たちの親業アプローチを売り込もうとする多くの専門家が提供する情報は膨大すぎ、またしばしば矛盾していることもあります。しかし、そのうちの幾人かは説得力ある考えを述べる専門家とサポート法が存在します。ここでは子供のテクノロジー使用に関する貴重な情報をKISTコミュニティの皆さんと共有したいと思います。

Catherine Steiner-Adair の *The Big Disconnect* は子供の年齢に関わらず、全ての親御さんにお勧めしたい、力強く(怖いくらいに)啓発的な本です。筆者のチャイルドセラピスト及びスクールカウンセラーとしての経験から得た数多くの事例と最新の研究に基づき、Steiner-Adair はテクノロジーとともに成長していく子供たちが直面する現実と、親たちが子供をテクノロジーに関連の物事(テレビやゲー

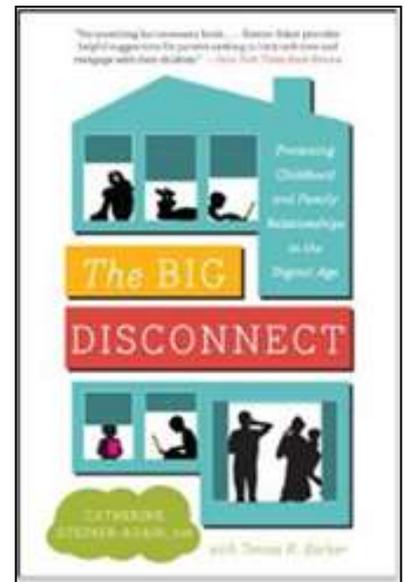
ムを含む)や、依存、オンラインでの様々な危険からいかに子供を守るのかについての予備知識を与えてくれます。

**10代の子供たちの2/3
はコンピュータを使った
学習中に「他のこと」の
しているという。**

テクノロジーが子供の教育にもたらす利点を認識しつつも、Steiner-Adair は子供たちはテクノロジーの危険性やソーシャルメディアの自由性に触れる用意が未だ出来てはいないと警告します。彼女は科学的事実に基づいた、メディアやソーシャルネットワークと、子供たちの孤独、抑うつ、集中力の不足やネット依存といった望ましくない心理的な発達との関係についても述べています。本書は「ただのゲームだから」や「友達とおしゃべりしているだけ」と思っている親たちにとって驚くべき事実を告げるもので、子供たちの可能な限り健康的な発達に対する意識を高めるものです。

ソーシャルメディアを利用している10代の子供たちの3人に一人はソーシャルネットワークサイト上の人たちは他人に対して意地が悪いと報告している。

テクノロジーが学習にもたらす悪影響に加え、Steiner-Adair はテクノロジーに依存した仮想世界でのコミュニケーションは子供たちの共感力を弱めているとも論じています。子供たちの共感力を培うために様々な機会を



提供することは思いやりを育む上で、また他者の考えやものの見方を理解するために不可欠です。共感力は全ての国際的なコミュニティの中心となる重要な価値観であり、Steiner-Adair が述べているように、KISTの生徒達の心身の健康のためにも非常に重要な課題です。本校ではテクノロジー使用に関する方針や類似の文書の見直しを行う予定ですが、ご家庭でもお子さんの心身ともに健康な発達を促すために本書をご一読下さることをお勧めいたします。

本書、*The Big Disconnect* は Amazon Japan でご購入いただけます。

Jeffrey Jones
Head of School



卒業生の声

Rishab Rawatは KISTの2013年度卒業生です。彼は現在英国のThe London School of Economics and Political Science(LSE)の学士課程で経営科学を専攻しています。

大学生活は私にとってとにかく素晴らしい経験です。大学とは独創・率先力を必要とし、機会を求めて自ら努力する場だと学びました。大学では誰も懇切丁寧に面倒を見てくれないので、最初は怖気づき、大変なこともありましたが、その環境に慣れてくるとそれが心地よくなるのです。KISTを卒業して2年がたちますが、今LSEで、そしてロンドンの町で非常に幸せだと断言できます。

LSEでの1年目は依存する日々の終わり、そして自分にとっての独立の年でした。1年目は大学に慣れ、そして自分自身をより深く知るための期間でもありました。私にとって全く新しい人生を始めるようなものだったと言えます。自分で選択をし、しっかり食事を取り、学業は当然しっかりと行いつつ、友人たちとの交流もしたい。最初

は大変なこともありましたが、時がたつに連れ、新しい環境にも慣れ、上記すべてが日常の流れとなりました。

ロンドンでの典型的な一日は東京での日々とは全く違います。授業や講義は自分自身のスケジュールに従って一日の様々な時間帯に行われます。私は毎日授業が入っているのでとても忙しい毎日を送っています。日によっては授業の間にかかなりの空き時間が出来ることもあります。そのような時は図書館で勉強したり、昼食をとったり、友人たちとのんびりしたりして過ごします。

私の一日はスケジュールによって大きく異なります。日によってはグループミーティングがあったり、所属する委員会の会合があったり、来賓公演者による特別公演を聴講したりと様々なことが行われます。LSEの素晴らしいところは毎日著名な企業、官僚、学者、経済学者、またはノーベル賞受賞者などが学校を訪れることです。このことは学生たちに実際に著名な方々に会い、個人的に言葉を交わすまたとない機会を与えてくれます。ごく最近私はZoltan Acs教授とサウジアラビアのHRH Prince Abdulaziz Al Saudによる非常に興味深い起業に関する講演会に出席しました。これらのイベントは大学生活に更なる学問的刺激を与えてくれます。

このような講演意外にも、私はLSEの多くの委員会(ソサエティ)、例え



Rishab(左)が友達と時間を過ごしているところ

ば起業、財務や戦略コンサルタント委員会などに参加しています。私はこれら委員会委員を務めてはいませんが、定期的にイベントや週ごとの会議に参加しています。このようにやるのが山積みなので、平日はとても忙しいですが、週末は友人たちと会ったり、スポーツをしたりするようにしています。私はよくロンドン周辺の素敵なパブやレストランに行って、このエネルギーで活気に満ちた都市の魅力に触れています。

高校を卒業し、東京を離れることは私にとって大きな挑戦でしたが、その結果わくわくするような新しいことを経験し、新しい人生をはじめることが出来ました！

Rishab Rawat

The London School of Economics and Political Science (LSE)
B.Sc. in Management "Class of 2016"
KIST Alumnus "Class of 2013"



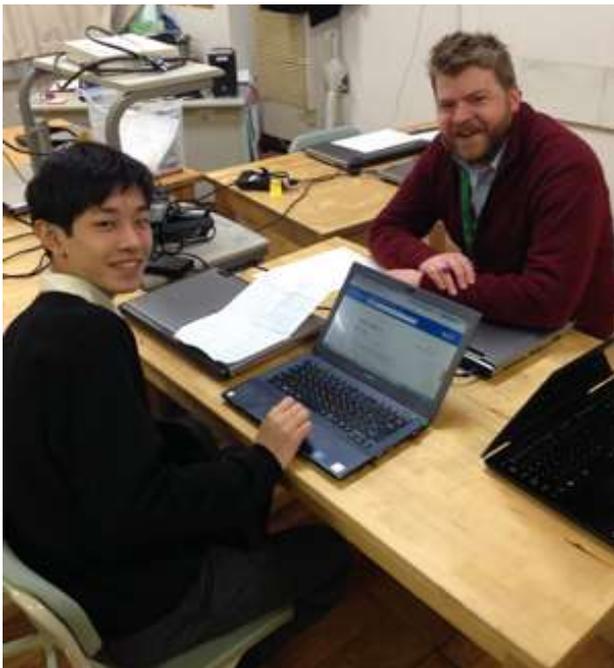
セカンダリーELS

英語サポートセンターからの最新情報をお知らせできることを嬉しく思っております！熱意あふれるELSインストラクターたちは引き続きエッセイ、課題、宿題について質問がある生徒達へのサポートを行っております。また、インストラクターたちは授業中も担当教員と協力し、生徒達を可能な限りサポートしています。課題や学習について質問がある場合は遠慮なく213号室のELSセンターに来てください。ELSスタッフがあなたをサポートします。

また、アカデミックライティング(小論文)クラスでは3つ目の単元; 科学！に入りました。この単元では生徒達にどのような実験レポートを書けばいいのかわかりやすく理解してもらうことを目的としています。最後の単元ではIndividuals and Societies(個人と社会)に焦点を当て、論説文の書き方を学びます。論説文は生徒がある意見を元に調査を行い、証明し、意見を更に推し進め、その意見に対し明確で詳細に議論する(述べる)という文章のジャンルです。¹ 生徒達は句読点や参考文献の引用を含む、このような文章の正しい構成について学びます。この分野でのライティングスキルの上達を目指す生徒にとっては最高の機会です。アカデミックライティング(小論文)クラスへの申し込みは学校ホームページのLEAPリンクから行えます。

サポートを必要としているKIST生は、気軽に203号室のELSセンターに立ち寄ってください。ドアはいつでも皆さんのために開かれています。

William Miller
Secondary ELS Coordinator /
Academic Writing Coordinator



¹ Google. (n.d.). Retrieved February 25, 2015, from <https://www.google.co.jp/#q=expository+essay+definition>

カレッジガイダンスニュース

今後の大学関連イベント

学校の内外で行われる大学関連イベントのお知らせです。世界中の有名大学代表者に会うことができます。積極的に参加して、情報を集めましょう。

KISTでの大学説明会

保護者の方もぜひご参加ください。

- シドニー大学(オーストラリア) | 3月30日(月) | 2:45pm-3:45pm | LMCにて | <http://sydney.edu.au>
- ヴァンダービルト大学(アメリカ) | 4月8日(水) | 3:45pm-4:45pm | LMCにて | <http://www.vanderbilt.edu>

KIST 2015春の大学フェア

KIST全校対象です。エレメンタリースクール保護者の方もどうぞお越しください。

3月21日(土)(祝) | 2:00pm-4:00pm | 体育館にて

今年も、日本、イギリス、アメリカ、オーストラリアから20以上の大学が参加します。各大学のアドミッション担当者や教授、現役の大学生や大学同窓生の方から直接話を聞けるこの機会をどうぞご利用ください。参加大学リストは次ページのフライヤーをご覧ください。

都内での大学イベント

- **カナダ留学フェア2015春**
3月20日(金)(17:00 - 19:30) / 3月21日(土)(11:00 - 18:00) | カナダ大使館にて
<http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/study-etudie/events-evenements.aspx?lang=eng>
- **Beo 留学フェア2015 春**
3月28日(土)(13:00 - 18:00) | 新宿エルタワー30階 サンスカイルームにて
<http://www.beo.co.jp/fair/english/index.html>
- **春の英国留学フェア2015**
3月30日(月)(17:00 - 21:00) | ブリティッシュカウンシルにて
<http://www.educationuk.org/japan/articles/edukfair2015spring/>

Mrs Keiko Okude
College Guidance Counselor
keiko.okude@kist.ed.jp



ロンドンスクール オブ エコノミクス説明会 2015年1月16日
G11 アドバイザリー

K. International School Spring College Fair 2015



日付：2015年3月21日(土曜)

時間：2pm - 4pm

会場：KIST Gym

ブリティッシュカウンシル
 コーネル大学
 同志社大学
 国際基督教大学
 順天堂大学
 九州大学
 レイクランド大学日本校
 明治学院大学
 メルボルンエデュケーションセンター
 武蔵野大学
 名古屋大学
 岡山大学
 立命館アジア太平洋大学 (APU)
 立命館大学
 上智大学
 テンプル大学日本校
 東京国際大学
 ケント大学
 ハワイ大学マノア校
 筑波大学
 ウェルズリー大学
 イェール - NUS 大学
 横浜国立大学 (YNU)



KIST College Guidance Office
 Mrs. Keiko Okude keiko.okude@kist.ed.jp